



党都議団 二四六七項目の予算要望書を提出 和泉都議が小池知事に手渡す

日本共産党都議団は年末の十二月二十七日に、都二〇二五年度予算編成に対する二四六七項目の要望をまとめ、和泉なおみ幹事長が小池百合子知事に対し要望書を手渡しました。



巨大な財政力を 都民の暮らしと営業を守るため

二四六七項目におよぶ要望は、都議団が毎年都内の階層別・分野別の各団体と懇談し、そこで出された要望項目をひとつひとつ都議団として集団的に検討し整理したもので、日本共産党都議団のたくさんある諸活動のなかでも大きな比重を占めるものです。

要望書提出にあたって和泉なおみ都議は幹事長として小池知事に対し「東京都の税収はバブル期を超し、史上最高水準を更新しつつありますが、都民の暮らしは長引く物価高騰で限界にきています。」

中小企業賃上げ応援助成金の創設を提案

都の巨大な財政力は大
具体的な要望項目としては、青年や母子家庭などへの家賃補助の創設や、公共交通の子ども

型開発優先の財界ファーストではなく、都民の暮らしと営業を守り地域経済を立て直すことにこそ
料金年齢を一八歳まで拡充することなどが提案されています。
特に地域経済の立て

使うべきです」と強調しました。

直しの観点からは、中小企業への燃料費・固定費の補助とともに、約一万社を対象に実施する「中小企業の賃上げ応援助成金」の創設提案などが盛り込まれています。

和泉都議十二月都議会で よつぎ療育園について文書質問

和泉都議は十二月都議会で区内東四つ木四丁目の都営住宅一階にある「よつぎ療育園」についての文書質問を行いました。和泉都議はこれまでも二〇二〇年九月議会でよつぎ療育園の改善を要望する文書質問を行いました。今回あらためてコロナ禍の経験を経て、施設改善の緊急性が明らかとなったので、都の責任の認識について質したものです。



都住のなかにはなく独立した 施設建設を検討すべき

よつぎ療育園は重度の障害を抱える人にとって日常的な健康管理や生活支援とともにレクリエーションなどの行事を楽しむための通所施設としての役割と、診療・リハビリが行える外来診療の役割を受け持たなくてはならない施設です。

人と家族の生活と健康に重大な影響が生まれています。
もともとよつぎ療育園は開設以来、その狭さと人員不足の状況がいわれていましたが、コロナ禍での運営は現場の工夫が限界を迎えています。

の努力と工夫だけでは解決できない、独立した施設の整備を検討すべきではないかと東京都の見解を質しています。

しかしコロナ対策のためにながい間、通所回数や、バス乗車人数を減らし、外来診療も人数を制限し厳しい利用制限を行ってきました。このため障害者本

和泉都議は文書質問で、こうした状況には正面から向き合うべきだ、と述べ施設が都営住宅の一階にあり、施設と住民の動線が分離されていないことなど構造的な課題は現場



小池知事に要望書を手渡す
和泉都議（中央）

日本共産党 都議会議員
和泉なおみの
さわやかレポート

NO.100 2025.1

和泉なおみ事務所 葛飾区東立石 3-25-8
TEL 5671-0850 / FAX 5671-0851